

11月15日(日) 第1回常任理事会 開催

新聞意見広告の取り組みを成功させよう!

11月15日(日)午後1時から、県平和委員会事務室で第1回常任理事会が開催されました。今年は新型コロナ禍により定期大会の開催は困難を期しました。日本平和委員会から急きょ岩月事務局次長が参加してくれました。出席者は9名、司会は篠原睦美さん(太田)でした。11月1日(日)、大会に準じる「第1回理事会」で、昨年度の総括と20年度の方針は確定しています。

今回の常任理事会は、年末の最大かつ重要な取り組みである「新聞意見広告成功のため全力を結集する」趣旨で開催されました。

コロナ禍で外出もままならない状況が続きます。感染拡大2波の終息もはっきりしないまま、現在は3波に入っていると言われます。これからますます寒くなる中で大変な状況ではありますが、取り組み成功を勝ち取りたいと意志統一を行いました。

岩月康範 事務局次長(日本平和委員会)の挨拶



今回、常任理事会に参加させて頂いたのは、11月21日(土)に「オンライン」で開催される日本平和大会への参加をお願いしたいということです。ここにご参加の方々と平和大会に参加経験のある人は3人とのことです。今回はオンラインでの開催ですから交通費もかかりません。家の中にいても参加できます。平和大会を知って頂けるチャンスというのが最大の眼目です。コロナの関係もありますが、全国では一ヶ所に集まって視聴する形態も増えています。

▼米軍基地の強化、おもとに安保条約という日米軍事同盟がある

茨城では「沖縄への連帯」という取り組みが継続されています。沖縄の基地が強化されるという根本的な問題は、安保条約という日米軍事同盟にあります。ですから安保条約を無くさない限り日本の平和は来ない、安保条約と言う軍事同盟をやめることが必要なのです。安保条約の廃止を正面に掲げて取り組んでいる団体は平和委員会しかありません。平和委員会は平和の取り組みをする若者を育てるという役割も持っています。安保条約の廃棄と言うことでも皆さんに平和大会に沢山参加して頂きたいと考えています。

▼平和新聞を読んで平和大会に参加しよう

平和新聞では、沖縄だけでなくその周辺の島々でも軍事基地建設が強行されようとしている実態や現地の人たちのたたかいを掲載しています。

国は米空母艦載機離着陸訓練(FCLP)の移転先として、鹿児島県西之表市(種子島)の馬毛島(まげしま)に、米軍・自衛隊基地建設計画を進めています。11月15日号では基地建設に反対する立場を表明した八坂俊輔市長のインタビュー記事を掲載しました。平和新聞を読むことで基地問題の本質や全国のたたかひが見えてきます。また全国のたたかひが見えることで茨城のたたかひもよく見えてくると思います。学習は平和運動を深め広げるためにも大切なものだと思います。

▼多彩な参加者と深い内容の日本平和大会

平和大会にはアメリカや韓国からもゲストが来ます。また市民連合の呼び掛け人である中野晃一さんや安田菜津紀さん、特別ゲストには半田滋さん、前泊博盛さんなど多様な方々が参加しています。そのための学習パンフレットなどもありますので是非読んで下さい。

また敵基地攻撃能力に関するパンフレットも1部10円で販売しています。この背景にも安保条約があります。意見広告などで取り組んでくれた方々などに広めるのもいいのではないかと思います。皆さん各自に日本平和委員会のホームページを開いて頂き、そこから参加申し込みをして下さい。よろしくお願いします。(拍手)

草の根のちからで成功させよう 「新聞意見広告」!

意見広告の掲載内容については、第7回常任理事会、第1回理事会で趣旨や掲載内容が討議されました。その討議を受け、昨年と同じように6名の「意見広告実行委員会」が設置されました。協議の結果、「学術会議」「憲法・平和」「生活・医療」「東海第二原発」の4つの課題を提示し、これらの趣旨をまとめて提起する文を作ることとしました。読者が紙面に引きつけられるようビジュアルな表現を用い、キャッチコピーは「あなたの大切なものは守られていますか」に決まりました。

▼コロナ禍に配慮した取り組みで賛同者の獲得を進めよう

昨年19年度は個人賛同1,300口余、団体賛同130口ほどでした。18年度と比較すると個人で100口ほど減少しています。理由として県北を襲った台風被害です。家屋はもちろん、収穫した米や関連する高価な農機具、生育中の野菜が水没する、線路は分断されるなど県北は大きな被害をうけました。

今年度は新型コロナ禍です。私たちの力の源泉である「草の根」の取り組みは「顔を合わせる、話し合う」ことで大きな力を発揮します。その源泉がなくなってしまうという状況になっています。電話やメールなどで訴えるなど、創意と工夫で頑張りましょう。

▼朝日新聞12月5日(土)号の茨城版に掲載されます

12月8日(火)の掲載枠には入りませんでした。交渉の結果、12月5日(土)の朝日新聞茨城版に掲載される予定です。

常任理事会



30周年記念ボールペンの配布は5月以来の懸案になっていました。第1回理事会で「30周年記念に関する3つの事業の一環」として正式に決定しました。



▼国産ワインの普及は今年度から取りやめ！

国産ワインの販売取り組みは昨年度で終了しました。国産ワインの普及は年末の県平和委員会の財政を支える取り組みとして定着していました。しかし近年日本産ワインが国際的に高い評価を受けるようになり、それに合わせて価格が急騰しました。

県平和委員会が取り組みを始めた当初は国産ワインの評価は低く、飲む人も限られており、何よりも低価格でした。国産ワインの普及活動は甲府のワイナリーを支援すると同時に、県平和委員会のカンパ活動でもあったのです。

▼「記念ボールペンの」は、国産ワインの普及に代わるカンパ活動の一環！

今回の「30周年記念ボールペン」の普及活動は、記念事業であると同時に、活動費確保のためのカンパ活動でもあります。大変な中ですが、500組の普及をやり遂げる必要があります。仕様は以下の通りです。

- ・赤軸・緑軸2本セット（インクは両方とも黒です）
- ・総計500組（1,000本）
- ・1組（2本セット）500円
- ・各平和の会で、目標を立てて取り組みます。



11/1 理事会で東海第二原発の運動に関する質問が出されました！

【質問】 「県民投票の会」は、「東海原発の再稼働に賛成であっても反対であってもいい」という立場で県民投票条例制定の運動をしてきたと思うが、議案では「反対」の立場で運動したように読めるがどうか？

【回答】 そのように取れたのでしたら申し訳ありません。東海第二原発の再稼働について県民投票条例をつくらうとする「県民投票の会」は2019年3月結成されました。「住民の声を聞く」と言う民主的な政治の実現の立場を基本とし、当初は「個人参加」を掲げ、「再稼働反対」を掲げる団体や政党等への呼び掛けはしないとして、それまでの反対運動と一線を引いていました。

その後、県民投票の会は地域でカフェ（学習会）を開催し世話人の獲得を進めるなかで、運動が進まない現実と直面しました。その打開について議論し、反対の運動を進めている団体にも政党にも呼び掛けるようになりました。民主主義の実現の形として「賛成か反対かを問わない運動」という趣旨は変えず、賛成でも反対でもいい、県民として意見を表明できる「県民投票実現」を目指し運動を進めてきました。

県平和委員会は東海原発廃炉の立場で取り組んでいます。「県民投票の会」結成当初から会とコンタクトを取り、県民投票の会には事務局長が個人として参加していました。県民投票の会が他団体との連携に切り替えたこともあり、事前の話し合いを進め、昨年6月の定期大会で「団体として参加する」ことを決めました。県平和

委員会は受任者獲得でも、署名の取り組みでも「再稼働反対」の姿勢を貫いて取り組みました。

【質問】 「いばらき未来会議」という東海第二原発再稼働反対を掲げる新しい組織ができたと言う。どのような組織なのか？

【回答】 県民投票の会の事務局長だった曾我日出夫さん（元茨城大学教授）と、乾康代さん（茨城大学教授）が共同代表になり、「東海第二原発再稼働反対」を掲げて活動する団体として9月13日に結成されました。「再稼働反対」の各団体と連携・協力しながら再稼働阻止の活動を進めると言います。村上元東海村長を始め40名余の賛同者が結集しています。（11月12日茨城新聞記事参照）

共同代表の曾我さんは県民投票の会の事務局長だったこともあり（現在は離任）、県民投票の会の「反対運動ではない」と言う運動と相俟って全体が効果的な運動になるよう配慮するとしています。再稼働につながる県知事選や関係自治体の首長選挙での支援も謳っています。

**再稼働阻止へ
新団体が発足**

東海第二、連携の軸に
日本原子力発電（原発）
東海第二原発（東海村日方）
の再稼働阻止に向け活動する
団体「いばらき未来会議」
（乾康代、曾我日出夫共同
代表）が11日までに発足し、
同日、県庁で記者会見を開
いた。設立は、再稼働反対
を掲げる各団体の連携の軸
となり、再稼働を止める県
内の動きを強める狙い。
再稼働の賛否を問う県民
投票条例案が県議会6月定
例会で否決され、阻止実現
の危機を感じたことなどか
ら発足へ動いた。メンバー
は村上達也前東海村長ら約
40人が名を連ねる。
会見では共同代表らが活
動方針を説明。各団体への
情報提供や取り組み支援の
ほか、首長や議会への再稼
働阻止の働き掛け、選挙で
の候補者との連携、学習会
などを予定するという。

茨城新聞記事 11月12日